



テクノロジーに、ハートを込めて。

2015年3月期（第39期）

決算説明会資料

株式会社フォーカスシステムズ

2015年6月2日（火）

本資料は、2015年3月31日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2015年6月2日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

ごあいさつ

I . 2015/3期(第39期)決算について	P3 ~ 14
II . 2016/3期(第40期)方針および業績予想	P15 ~ 17
III . ご参考	
1.当社の概要	P19 ~ 20
2.決算データ推移	P21
3.当期トピックス	P22 ~ 23
4.当期製品トピックス	P24

I .2015/3期(第39期)決算について



- ① JASDAQから市場第二部へ市場変更
(平成27年5月25日)
- ② 売上高、当期利益は過去最高を更新
- ③ 年間配当を1株25円に増配
- ④ 社員数、1000名の大台へ
(平成27年4月1日現在)

(百万円)	2014/3期 実績	2015/3期 計画	2015/3期 実績	前期比		計画比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	14,146	14,500	15,081	935	6.6%	581	4.0%
公共関連事業	4,668	5,016	5,372	703	15.1%	356	7.1%
民間関連事業	8,440	8,535	8,633	193	2.3%	98	1.1%
セキュリティ機器 関連事業	1,037	949	1,075	38	3.7%	126	13.3%
営業利益	887	900	940	52	5.9%	40	4.4%
経常利益	849	850	897	47	5.6%	47	5.5%
純利益	455	500	592	137	30.1%	92	18.4%

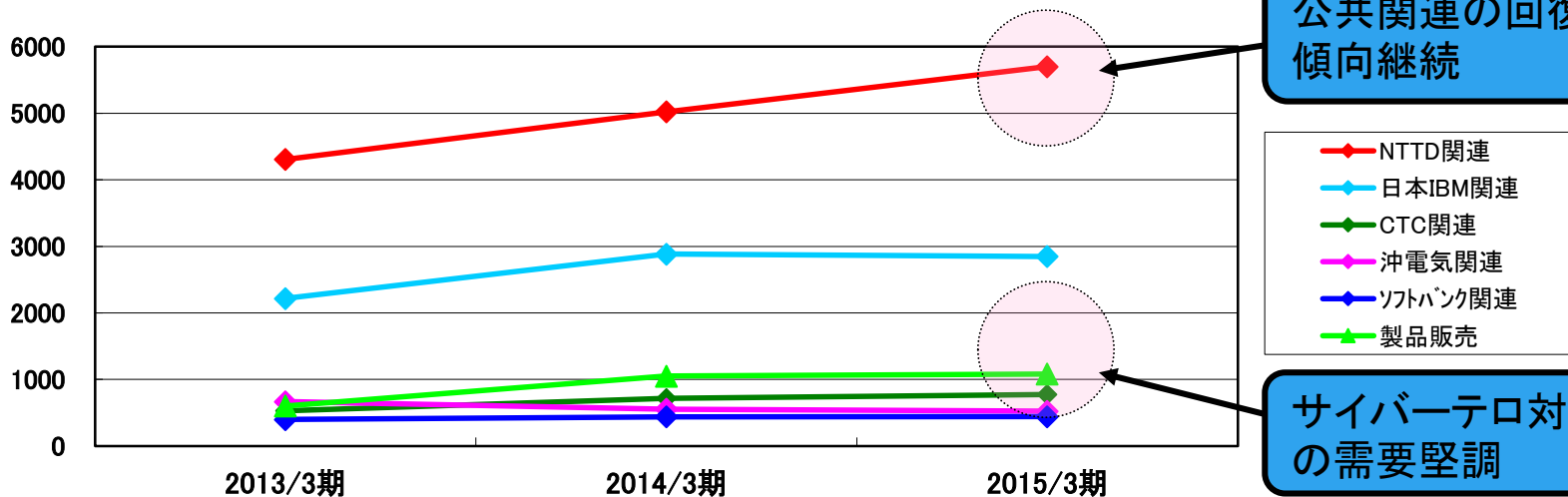
- ・ 公共・民間・セキュリティ機器、各事業分野ともに、計画達成。
- ・ 配当(予定) 25円(うち特別配当15円)

(注)平成27年3月23日に配当予想の修正を行い、20円の配当を増配し、25円といたしました。

単位: 百万円

	売上高				
	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	
公共関連	4,717	4,311	4,668	5,372	社会保険（年金）、医療保険の分野の受注が好調に推移。マイナンバー関連の動きも見え始めている。
民間関連	6,695	7,461	8,440	8,633	需要はあるが、技術者不足がネックとなっている。名古屋地区における業績は順調に推移。
セキュリティ機器関連	496	580	1,037	1,075	サイバー犯罪対策製品の販売が昨年に続き順調。また、企業のマイナンバー対応に伴う暗号エンジンの販売が好調。

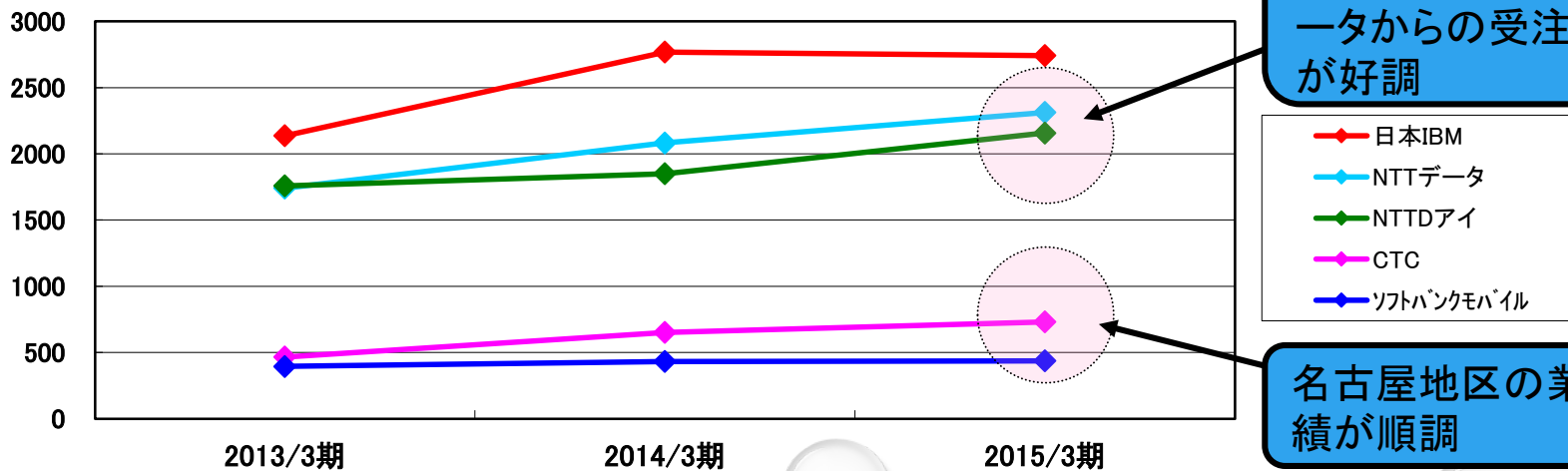
顧客グループ別



公共関連の回復
傾向継続

サイバーテロ対策
の需要堅調

主要顧客別



公共関連主要顧
客であるNTTデ
ータからの受注
が好調

名古屋地区の業
績が順調

単位：百万円

区分	2013/3期	2014/3期	2015/3期
(資産の部)			
流動資産	5,559	6,428	6,897
固定資産	5,636	5,408	7,443
有形固定資産	3,746	3,741	3,747
無形固定資産	38	60	188
投資その他の資産	1,851	1,606	3,507
資産合計	11,195	11,837	14,340
(負債の部)			
流動負債	3,769	4,102	4,141
固定負債	2,556	2,705	3,429
負債合計	6,326	6,807	7,571
(純資産の部)			
資本金	2,905	2,905	2,905
資本剰余金	1,468	1,468	1,468
利益剰余金	367	719	1,173
自己株式	△706	△706	△706
評価・換算差額等	833	642	1,928
純資産合計	4,868	5,029	6,769
負債純資産合計	11,195	11,837	14,340

資産は、前事業年度末に比較し2,503百万円増加しました。
これは主に投資有価証券の増加1,851百万円、現金預金の増加246百万円、売掛金の増加244百万円によるものであります。

負債は、前事業年度末に比較し764百万円増加しました。
これは主に長期借入金の減少496百万円があった一方で、社債の増加641百万円、繰延税金負債の増加566百万円によるものであります。

純資産は、前事業年度末に比較し1,739百万円増加しました。
これは主にその他有価証券評価差額金の増加1,285百万円、繰越利益剰余金の増加454百万円によるものであります。

単位：百万円

区分	2013/3期	2014/3期	2015/3期
売上高	12,353	14,146	15,081
売上原価	10,796	12,181	12,976
売上総利益	1,557	1,965	2,104
販売費及び一般管理費	1,118	1,077	1,164
営業利益	439	887	940
営業外収益	64	54	49
営業外費用	87	92	92
経常利益	416	849	897
特別利益	532	—	22
特別損失	727	3	10
税引前当期純利益	221	846	908
法人税等	△19	390	316
当期純利益	241	455	592

売上高は、前事業年度に比べ935百万円増加しました。
公共関連事業が703百万円、民間関連事業が193百万円、セキュリティ機器関連事業が38百万円と、全てのセグメントで売上高が増加しました。売上原価は795百万円増加し、売上総利益は139百万円増加しました。

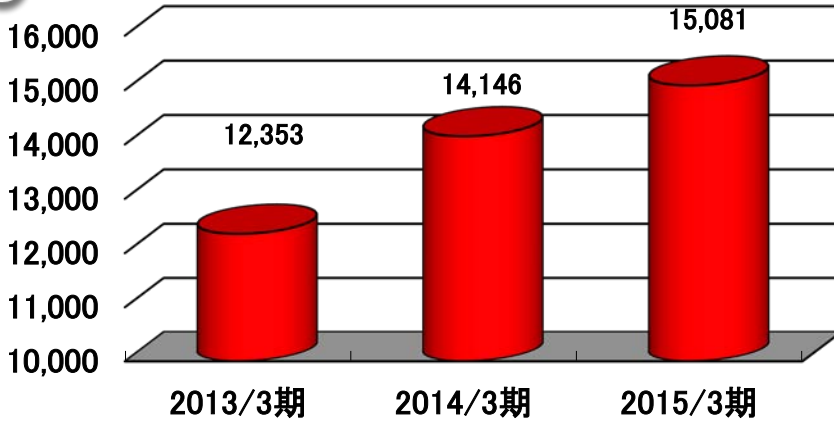
売上高の増加に伴い、営業利益は前事業年度に比べ52百万円の増加となりました。

前々事業年度における特別利益は、主に投資有価証券売却益、保険解約返戻金によるものです。前々事業年度における特別損失は、主に役員退職慰労金によるものです。

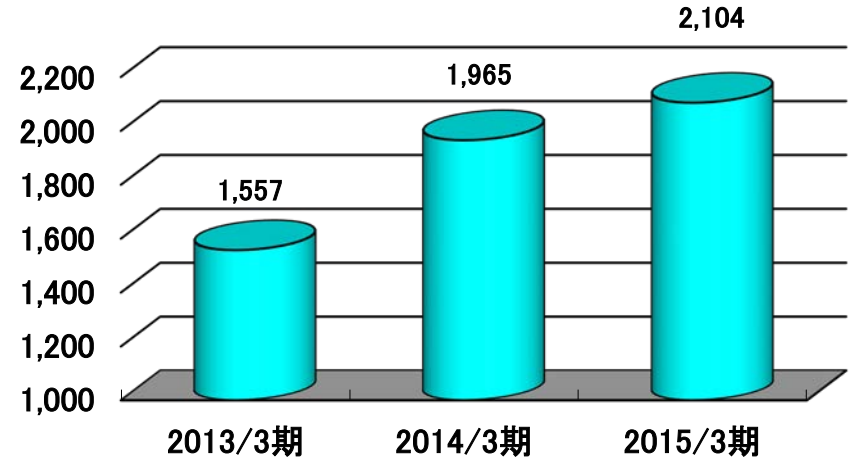
上記の結果、当期純利益は592百万円となり、前事業年度に比べ137百万円の増加となりました。

單位: 百万円

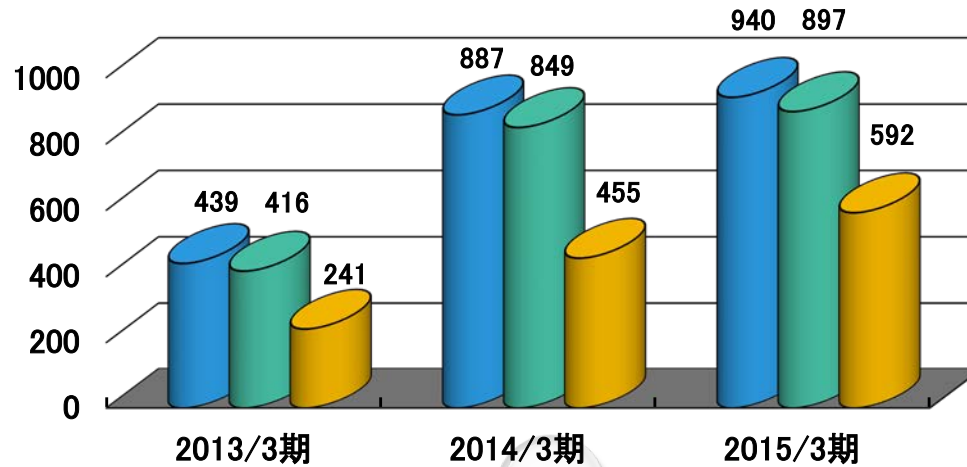
■ 売上高



■ 売上総利益



■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 四半期純利益



(百万円)

	株主資本							評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金				
					繰越利益 剰余金				
当期首残高	2,905	749	718	1,468	719	△706	4,386	642	5,029
当期変動額									
剰余金の配当					△138		△138		△138
当期純利益					592		592		592
自己株式の取得						△0	△0		△0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								1,285	1,285
当期変動額合計	—	—	—	—	454	△0	454	1,285	1,739
当期末残高	2,905	749	718	1,468	1,173	△706	4,841	1,928	6,769

(百万円)

区分	2013/3期	2014/3期	2015/3期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,020	667	567
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	875	△119	△334
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	56	△32	△36
IV 現金及び現金同等物の増減額	△89	514	196
V 現金及び現金同等物の期首残高	2,484	2,395	2,910
VI 現金及び現金同等物の期末残高	2,395	2,910	3,106

I 営業活動による キャッシュ・フロー

当事業年度は、567百万円の収入がありました。主な内訳は、法人税等の支払額526百万円があった一方で、税引前当期純利益908百万円等によるものです。

II 投資活動による キャッシュ・フロー

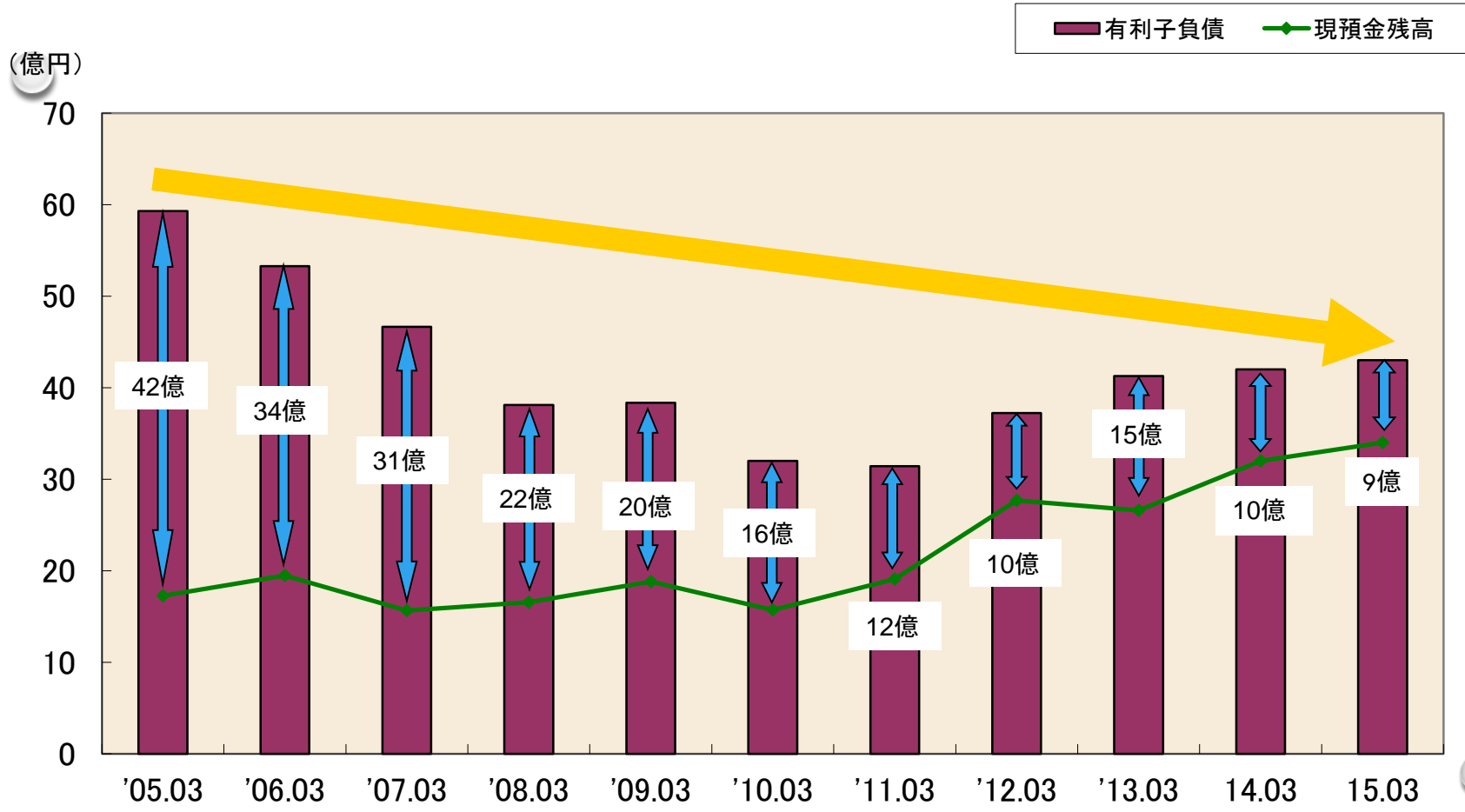
当事業年度は、334百万円の支出がありました。主な内訳は、無形固定資産の取得による支出160百万円、有形固定資産の取得による支出79百万円、定期預金の増加額49百万円等によるものです。

III 財務活動による キャッシュ・フロー

当事業年度は、36百万円の支出がありました。主な内訳は、社債の発行による収入982百万円、長期借入れによる収入750百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出1,425百万円、社債の償還による支出144百万円等によるものです。

VI 現金および現金同等物の期末残高

上記の結果、当事業年度における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比較して196百万円増加し、3,106百万円となりました。



10年で、33億の改善

● II. 2016/3期(第40期) 業績予想



(百万円)	2015/3期 通期実績	2016/3期 通期予想	前期比
売上高	15,081	15,300	219
営業利益	940	950	10
経常利益	897	920	23
当期純利益	592	600	8

予見されるビジネスチャンスをより確実なものとするため、今後数年の事業展開を睨み、技術者の採用・育成などへの投資を行う予定。

- ① 需要が潤沢であるインフラビジネス → 「技術者の育成」
- ② ノウハウの蓄積にもつながる運用業務 → 「シェアの拡大」
- ③ 業務アプリケーション → 「専門技術への取組みによる対応領域の拡大」
- ④ ビジネス拠点 → 大阪と名古屋での技術者連携による、名古屋地区業務拡大

(円)	2015/3期 通期実績	2016/3期 通期予想	配当性向
1株当たり年間配当金	25.00	25.00	28.8%

第39期配当(予定) 1株当たり25円(普通配当10円、特別配当15円)
 第40期配当(予想) 1株当たり25円

Ⅲ. ご 参 考

1. 当社の概要
2. 決算データ推移
3. 当期トピックス
4. 当期製品トピックス



経営理念

「社員すべてが心と力を合わせ、企業の発展と成長を通じて、
未来のより良い環境作りに貢献する。」

経営ビジョン

私たちは、以下の3つの責任を果たしていきます。

1. 個人責任

人間性と技術力を磨き、最高のサービスをお客様に提供します。

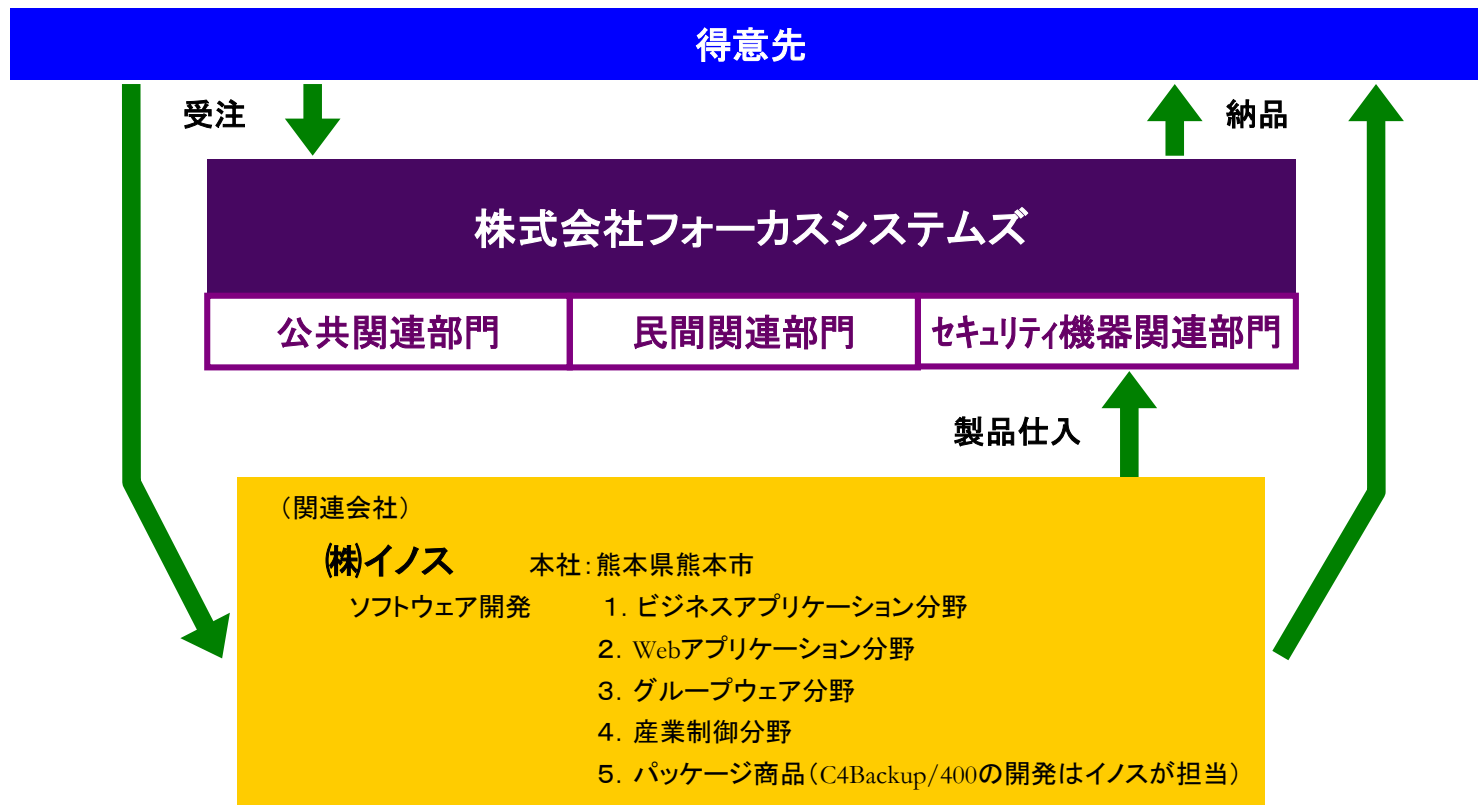
2. 企業責任

社員相互が信頼し合い、安心かつ働きがいのある会社を作ります。

3. 社会責任

お客様、投資家、株主から信頼され、社会から必要とされる会社を作ります。

企業集団の状況



関連会社の状況 (平成27年3月)

社名	持分 (%)	売上高 (千円)	経常利益 (千円)	純利益 (千円)
(株)イノス	20.0	1,046,952	17,592	20,482

非連結通期	2009/3/31	2010/3/31	2011/3/31	2012/3/31	2013/3/31	2014/3/31	2015/3/31
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高(千円)	12,041,114	11,702,747	11,401,654	11,909,800	12,353,938	14,146,242	15,081,738
営業利益(千円)	61,496	127,368	187,847	△47,127	439,240	887,789	940,310
経常利益(千円)	13,687	88,538	145,650	△58,532	416,311	849,751	897,205
当期純利益(千円)	△155,840	△157,384	86,844	151,563	241,130	455,647	592,742
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
発行株式総数(千株)	9,195	9,195	8,146	8,146	8,146	8,146	8,146
純資産額(千円)	4,732,367	4,677,323	5,045,697	6,047,149	4,868,962	5,029,600	6,769,094
総資産額(千円)	9,895,643	9,060,966	10,129,135	13,208,330	11,195,332	11,837,231	14,340,827
1株当たり純資産額(円)	546.45	540.09	619.37	821.66	703.26	726.46	977.72
1株当たり配当額(円)	0	0	10.00	10.00	15.00	20.00	25.00
1株当たり当期純利益(円)	△17.64	△18.17	10.20	19.52	34.03	65.81	85.61
自己資本比率(%)	47.8	51.6	49.8	45.8	43.5	42.5	47.2
自己資本利益率(%)	—	—	1.8	2.7	4.4	9.2	10.0
配当性向(%)	—	—	98.0	51.2	44.1	30.4	29.3
従業員数(人)	827	867	895	882	899	941	962
株価 年度高値(円)	537	450	600	659	679	858	1,210
株価 年度安値(円)	375	211	220	418	552	442	540

平成27年5月25日

東京証券取引所市場第二部への市場変更に関するお知らせ

本日、当社の株式は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)から、同取引所市場第二部へ市場変更されましたことをお知らせいたします。

当社は、昭和52年(1977年)に創業、平成8年(1996年)に株式の店頭公開を行いましたが、事業規模の拡大にあわせ、投資家の方々への裾野を広げるべく、東京証券取引所市場第二部に市場変更いたしました。

これもひとえに、株主の皆様、お取引先様をはじめ、多くの関係者の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

今後も皆様のご期待にお応えできるよう、更なる企業価値の向上に努めてまいります。引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年3月23日

配当予想の修正に関するお知らせ

平成25年5月9日付当社「平成25年3月期決算短信」において発表いたしました平成26年3月期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 配当予想修正の理由

当社は、株主に対する長期的かつ総合的な利益の拡大を重要な経営目標と位置付けております。継続的かつ安定的な配当を行なうことを基本方針とし、将来にわたり競争力の維持拡大に努め、企業価値の増大を図るために、企業の財政状態、利益水準および配当性向を総合的に勘案し、再投資のための内部資金の確保と株主への利益配当政策を実行していく考えであります。

平成27年3月期の期末配当予想につきましては、1株当たり20円を予想しておりましたが、当期の業績動向、財政状態等を総合的に判断し、1株当たり5円増配し25円とさせていただきます。

なお、本件につきましては、平成27年6月開催予定の定時株主総会に付議させていただく予定です。

2. 修正の内容

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (平成26年5月8日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 20.00	円 銭 20.00
今回修正予想	—	—	—	25.00	25.00
当期実績	—	0.00	—	—	—
前期実績 (平成26年3月期)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等により予想数値と異なる可能性があります。

以上

平成26年6月19日

～ 放送映像からインターネット動画、静止画まで一貫したソリューションを提供～

フォーカスシステムズ、三菱電機インフォメーションシステムズ 電子透かし製品の販売を共同で推進

株式会社フォーカスシステムズ(以下FOCUS)と三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社(以下MDIS)は、電子透かし製品の販売を共同で推進することで合意しました。

デジタルコンテンツの不正な流出・使用への対策として、目視では識別できない情報をコンテンツに埋め込む電子透かし技術の利用が拡大しています。その対象は静止画から動画、音声と広がり、また動画であっても高精細な放送用やインターネット配信用など電子透かしに要求される技術も多様化しています。

一方で、デジタルコンテンツ関連業界では、放送事業者がインターネットによるサービスに進出するなど、一つのコンテンツを複数の媒体で展開する「ワンスソース・マルチユース」の動きが加速しています。

こうした動向に対応する今回の両社の協業により、デジタルコンテンツ流通・販売事業者の多様なコンテンツに関する電子透かし導入の要求に対して、一貫した製品提供及び技術サポートを提供することが可能になります。

両社はそれぞれ、MDISの「映像電子透かしソリューション」並びに、FOCUSの静止画・音声・動画対応の電子透かし「ACUAGRAPHY(アクアグラフィー)」及びインターネットの巡回監視サービス「ACUAPATROL(アクアパトロール)」を、一貫したソリューションとして販売します。電子透かしを利用したシステム構築については主にMDISが担当します。

両社は、デジタルコンテンツの不正利用を抑止する、いわゆるソーシャルDRM(注1)としての電子透かし製品の普及を中心に、様々な利用方法を通じて、コンテンツ市場の健全な発展に貢献していきます。(注1)DRM(DIGITAL RIGHTS MANAGEMENT):デジタル著作権管理

【MDIS「映像電子透かしソリューション」の特長】

高精細な放送品質のコンテンツにリアルタイム(ストリーミング)で電子透かし埋め込みが可能です。

また、不正使用者を特定可能な個別埋め込みの電子透かしや、電子透かしを埋め込んだコンテンツをスマートフォンで読み取ることで、利用者を指定のウェブサイトへ誘導するといったシステムの要求にもお応えします。

【FOCUS「ACUAGRAPHY」の特長】

国内で数多くの販売実績がある電子透かし製品です。特に静止画において拡大縮小、回転といった加工への耐性が強く、インターネット上の掲載画像を常時巡回監視するサービス「ACUAPATROL」もご提供可能なため、多様化する不正利用の対策に最適です。動画用電子透かし、音声用電子透かし等、豊富な品揃えで様々なデジタルコンテンツへの対応が可能です。

本日は、ご多忙の中ご来場賜り
ありがとうございました。

今後とも、ご指導ご支援のほど
お願い申し上げます。

